

地域ので育つ中部っ子

中部っ子は地域ので育っています。1・2年生は、毎週金曜日に学習支援ボランティアの皆さんから勉強を教えてくださいました。子どもたちは安心して勉強ができると大喜びです。また、PTA会長OB会の皆さんには、米作り体験や門松作りとお世話になりました。他にも、おはなし宅急便の皆さんやフッ化物洗口ボランティアの皆さん、児童一人一人の名前が入ったお手本を準備してくださいました。習字の藤原先生、町文化財ボランティアガイドの皆さん、貴重な農業体験をさせていただく農家の皆さん、登下校を毎日見守ってくださる松村さんなど、紙面では紹介しきれないほどたくさんの人たちに支えられており、子どもたちには感謝の心が育っています。



学習支援ボランティアによる朝の学習の見守り

人権啓発標語 「クラス、学校、そして町 みんなが暮らしやすくするために 広げたい温かいつながり」

武蔵ヶ丘中学校 1年 徳重 涼楓

部落差別をはじめあらゆる差別をなくす

第34回菊陽町人権子ども集会

平成30年12月1日、第34回菊陽町人権子ども集会が菊陽中学校体育館で開催されました。8月から5回にわたり、子どもたちによる実行委員会を開催し、準備が進められていました。

この集会は▼いじめや差別についての正しい知識を持ち、身の周りのおかしさに気づく▼いじめや差別を受けている人の思いを知り、おかしさをなくす行動をする▼お互いを認め合い、いじめ・差別をなくすためにつながりあえるなにかをつくることを目的に、子どもたちが考え、運営していく集会です。

ステージ発表を4つの小中学校が行いました。

菊陽南小学校は「ほんとうのなかまをめざす みなみっ子」と題し、学期ごとに行っている校内人権集会(みなみっ子集会)を大切にしていること、そして、集会の中で自分の思いを伝え、返しをもらってつながりができていることを伝えました。

菊陽中部小学校は、生活の中で見られる「遊びの中でのいじめ」、「うわさ話」などについて、人権委員会による寸劇を見て何が問題なのかどうすればいいのかなどを考え合っていると発表しました。この集会でも参加者に劇をして問いかけました。



菊陽中部小学校による発表の様子

菊陽北小学校は菊陽町で差別をなくすために活動されている方から「差別やいじめはする人の問題でありどうしたら分かってもらえるかを考え、ソフトボール活動をはじめた」と聞き取りをしました。聞き取ったことを劇や歌で表現しました。

武蔵ヶ丘中学校は、2001年11月5日早朝、小中学生を含む家族7人が突然入国管理局に連れ去られたこと、そのことに対して行動した先輩たちの姿を「満点星(マンティエンシン)」と題して劇化しました。家族とは何か、なにかとは何かを考えさせてくれました。

4つのステージ発表に対して、参加者から「差別をする人が気づかないといけないと思う」、「なかなか自分の思いを伝えきれていない。まずは本音を伝え本当のなかまをふやしたい」などたくさんの返しがありました。多くの参加者が返しをしようと立ち上がりました。時間が足りず全員

の返しができないほどでした。

また、生活画や学年の人権学習での学び(ミナマタで学んだこと、ナガサキ修学旅行など)の展示発表を保育園・武蔵ヶ丘小・菊陽西小・武蔵ヶ丘北小・菊陽中学校が行いました。



会場壁面に各校・園の作品が展示された

集会の最後には①いじめや差別を自分のこととして考え、②自分の思いを伝え、自分から差別をなくす行動をし、③お互いのことを知り合い、いじめや差別を許さないなかまをつかっていくことを集会の宣言として参加者で確認しました。

「実行委員長として」

菊陽中学校 3年 小田原 悠太

ぼくは町人権子ども集会の実行委員長として、夏休みから5回の実行委員会に参加しました。集会の意義や目的を分かりやすく伝えるために、話し合いの中でみんなが一言一句を追求する姿を見て、ぼく自身もこの集会をみんなと共により良いものにしたいと思うようになり、差別はぼくたちでなくしていくんだという思いを強く持ちました。

集会当日は、各学校から今までに起きた絶対に許すことのできない出来事や、そこから学んだこと、考えたことについての発表がありました。それを聞いて、これから差別をなくしていく側として、他人事ではなく自分のこととしてとらえ差別を許さない態度で自分や周りを見つめて、行動していこうと思いました。

今後は、今回の学びを胸に留め、部落差別をはじめあらゆる差別を自分たちからなくしていくという強い気持ちで、周りへ発信し自分にできる取組から始めていきたいと考えています。卒業まであと少しですが、学級や学校のなかまとともに、差別やいじめをなくす集団になるために頑張っていきたいと思います。



実行委員長によるあいさつ

短歌会

正月の七草セツトに使う芹今年も出てるか休耕田に  
降る雨に満天星にはかに紅映えて冬せまる日の寒き身にしむ  
鶏頭は夕日を受けて晩秋の庭に色燃ゆ炎の如くに  
夕闇に白き椿の花浮きて母の面影ふつと頭ちたり  
ブランコを一人で漕ぐのができました足伸ばして後ろに曲げて

梅田 國雄  
河北 幸一  
佐藤せい子  
中村トシエ  
松本 東亜

菊陽句会報

きくよう文芸

ゆるり入りゆるりと過ぐる師走かな	田島 三間	店頭の色競ふなりシクラメン	財津 早雪
冬耕の畝整然とトラクター	紫藤 祥子	ひようひようと野の賑はいや枯芒	原野レイ子
悉く散りし紅葉の庭明り	曾我 育代	霜夜なる庭のアロエに心馳せ	寺尾千代子
庭先のしまる空気や霜の朝	曾我トモ子	山茶花の包み隠さず散るあした	高橋 孝子
朝のコーヒー窓辺に光る寒椿	緒方チエ子	大人の仲間に入りたき幼冬帽子	福田 貴子
一円玉落葉の如く逃げまろぶ	木村 信子	オリオンの煌めき見上げ日々重ね	田中 亜古
還暦の教え子と酌む紅葉宿	吉田 幸子	かなたより身をまかせては北の吹く	北川しんじ
紅葉も濃淡染めし過疎の村	米山るみ子	電飾連ね降誕祭のすぐそこに	佐藤 澄世